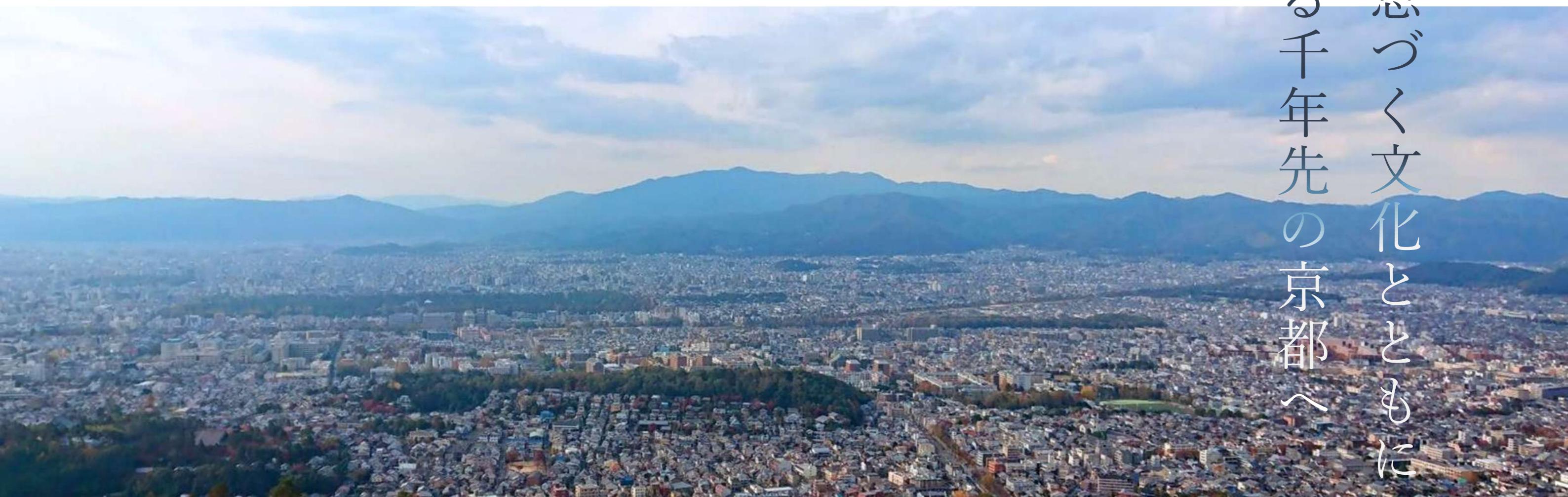


案

山紫水明に息づく文化とともに
彩りあふれる千年先の京都へ



案



目次

みどりの魅力とは

はじめに

第1章 理念

第2章 みどりの魅力

山 丘 竹林 草地

林業地 農地

川 池 疏水

公園 街路樹 雨庭 校庭

庭園 坪庭 社寺林 名木

植物園 御苑 御所 離宮 陵墓

建物の緑化 敷地の緑化

第3章 みどりの展望

鳥瞰図 現況図 将来の姿

未来に向けて

第4章 一人ひとりにできること

第5章 計画の概要

第6章 方針・施策の方向性

第7章 みどりの取組

あとがき

資料編

案

本計画は、都市緑地法に基づき策定する
京都市の「緑の基本計画」です。

京都の美しいみどりを愛するみなさまとともに
みどりの魅力や展望を共有して未来に向かう
そんな思いから、本計画を策定しました。

本計画では、漢字の「緑」ではなく、
ひらがなの「みどり」を使用しています。
この「みどり」という言葉には、
物質的な「緑」に加えて、
多様な価値（幸福感や癒し等）を込めています。

本計画のレイアウトや写真は、
みどりへの眼差しをより力強く発信するため、
市職員自ら手掛けたものです。

本文に下線を付けた箇所は、関連サイトへの
リンクとなっています（デジタルブック形式に限ります）。
より詳しい情報を知りたいとき、
ぜひクリックしてみてください。

(市長メッセージ欄)

はじめに

Preface

案

理

Concept

念

京都が目指すみどりの姿

「京都ならでは」「みどりならでは」の
理念を掲げます

山紫水明に息づく文化とともに 彩りあふれる千年先の京都へ

さん
し
す
い
め
い

案



美しい山々と清らかな川に抱かれた都市、京都

みどり豊かな風景のなかで、
庭園文化に代表される独自の文化が育まれ、
人々のくらしとともに幾世代にもわたり紡がれてきた

まちとくらしを美しく彩るみどりを守り育て、
千年先の京都へと引き継いでいく

——この思いを理念に込めて

東山の如意ヶ嶽（大文字山）から西を望む（撮影／みどり政策推進室 2018年）
元離宮二条城、京都御苑、吉田山、船岡山、雙ヶ岡（双ヶ岡）、京都府立植物園等が見える

みどりの魅力とは

第2章

案

みどりの魅力

The Attractiveness of Green

京都のまちや暮らしに息づく色々なみどり
その一つひとつの魅力を伝えます

山

Mountains

案



さんざん　ひがしやま　きたやま　にしやま

京都盆地を囲む三山——東山、北山、西山

山並みの美しい眺めは、京都が誇る

山紫水明の風景であり、まちを包む壮大なみどり

歴史や文化に深く関わり、多くの生きもののすみかにもなる

冬空のもと東山から望む西山と市街地、青く美しい山並み（撮影／みどり政策推進室 2024年）

丘

Hills

案



京都を見つめる3つの丘

よしだやま　ふなおかやま　ならびがおか
——吉田山、船岡山、雙ヶ岡（双ヶ岡）——

千年を超える歴史の中で人々に親しまれ、

先人たちが大切に守り続けてきたみどり

市街地にありながら太古からの風景を今に伝えている

東山から望む冬の吉田山、まちやくらしの風景に溶け込むみどり（撮影／みどり政策推進室 2025年）

竹林

Bamboo Forests

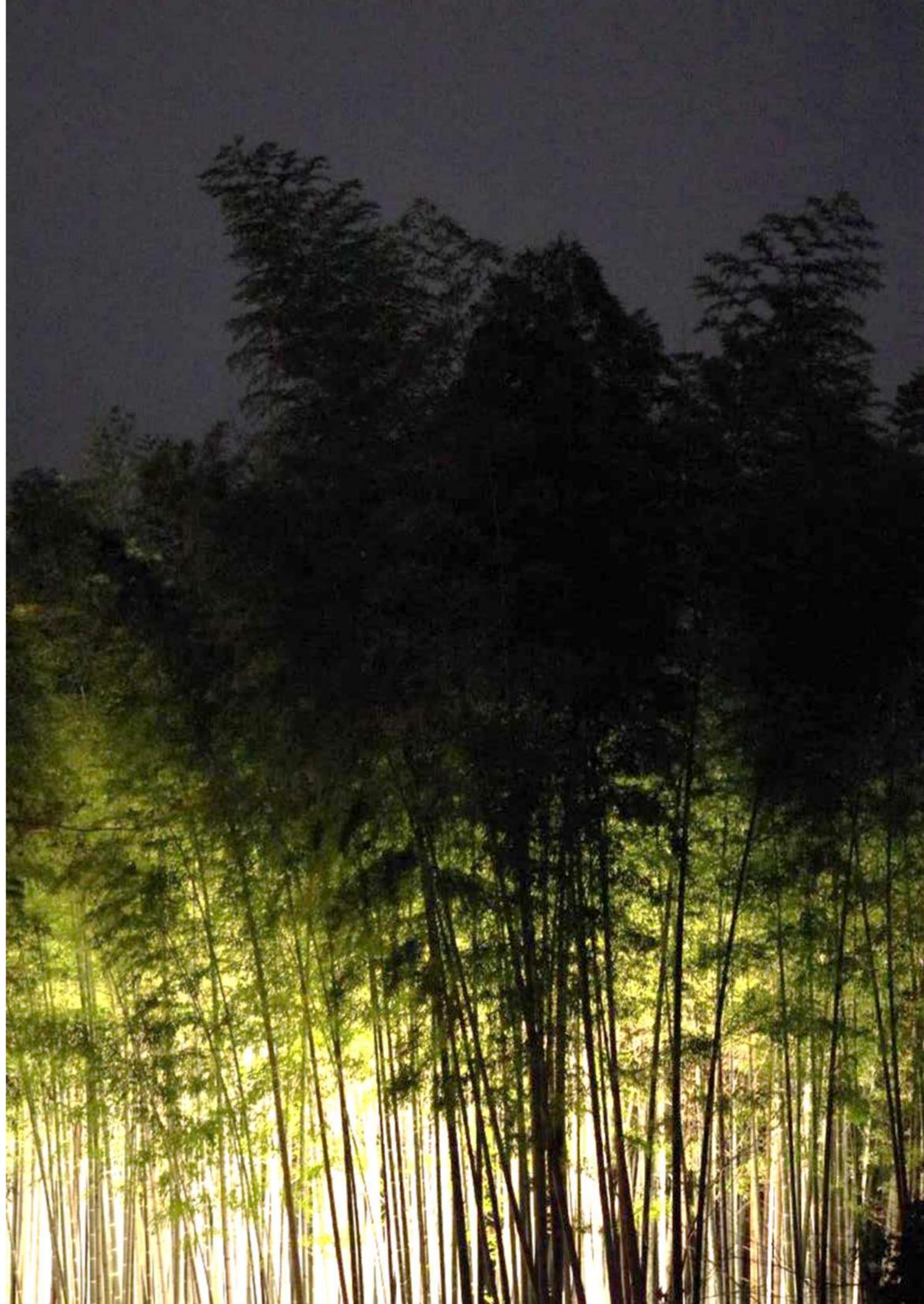
京都を代表する風景の一つ——竹林

嵐山の竹林の小径や散策路、

洛西や伏見の丘陵地に代表されるみどり

樹林とは違う、凛とした風景をもたらし、
国内外の人々を魅了する

案



冬の夜、ライトアップされた嵐山の竹林（撮影／みどり政策推進室 2021年）

草地

Grassland

案



草が生い茂る開けた場所——草地

かつらがわ うじがわ
桂川や宇治川の河川敷、

はつちょうだいら
八丁平の湿原、公園や庭園の芝生は、

いずれも京都に息づくかけがえのないみどり

風が通り抜け、鳥や虫にとっても大切な居場所となる

林業地

Timberland

林業が営まれる場所——林業地
りんぎょうち

しぜんりん
自然林とは異なる、人の営みが生み出す

整然とした風景が広がるみどり

人の手により脈々と受け継がれてきた営みは、
歴史や文化をも支えている

案



北山杉の林業地、手入れが行き届いたスギの木立（撮影／農林振興室 2025年）

農地

Farmland

案



きょうやさい
米や京野菜が育まれ、

農業体験や食育にもつながる場所——農地

市街地の南部や山すそを中心に広がるみどり

大地の恵みをもたらす農地は、どこか懐かしく、

都市の環境だけでなく、心と体の健康をつくる

川

Rivers

案



※2枚目(画面自動切替)
サクラ並木に彩られた山科川
(撮影／みどり政策推進室 2025年)



京都を代表する三川

かもがわ
——鴨川、桂川、宇治川

山紫水明と讃えられる

京都独自の風情をつくり出すみどり

京都には多くの川が流れ、

くらしや文化、憩いや癒しとも

深く結びついている

池

Ponds

豊かな水をたたえる場所——池

みどりがいけ
深泥池のように太古から存在する自然の池

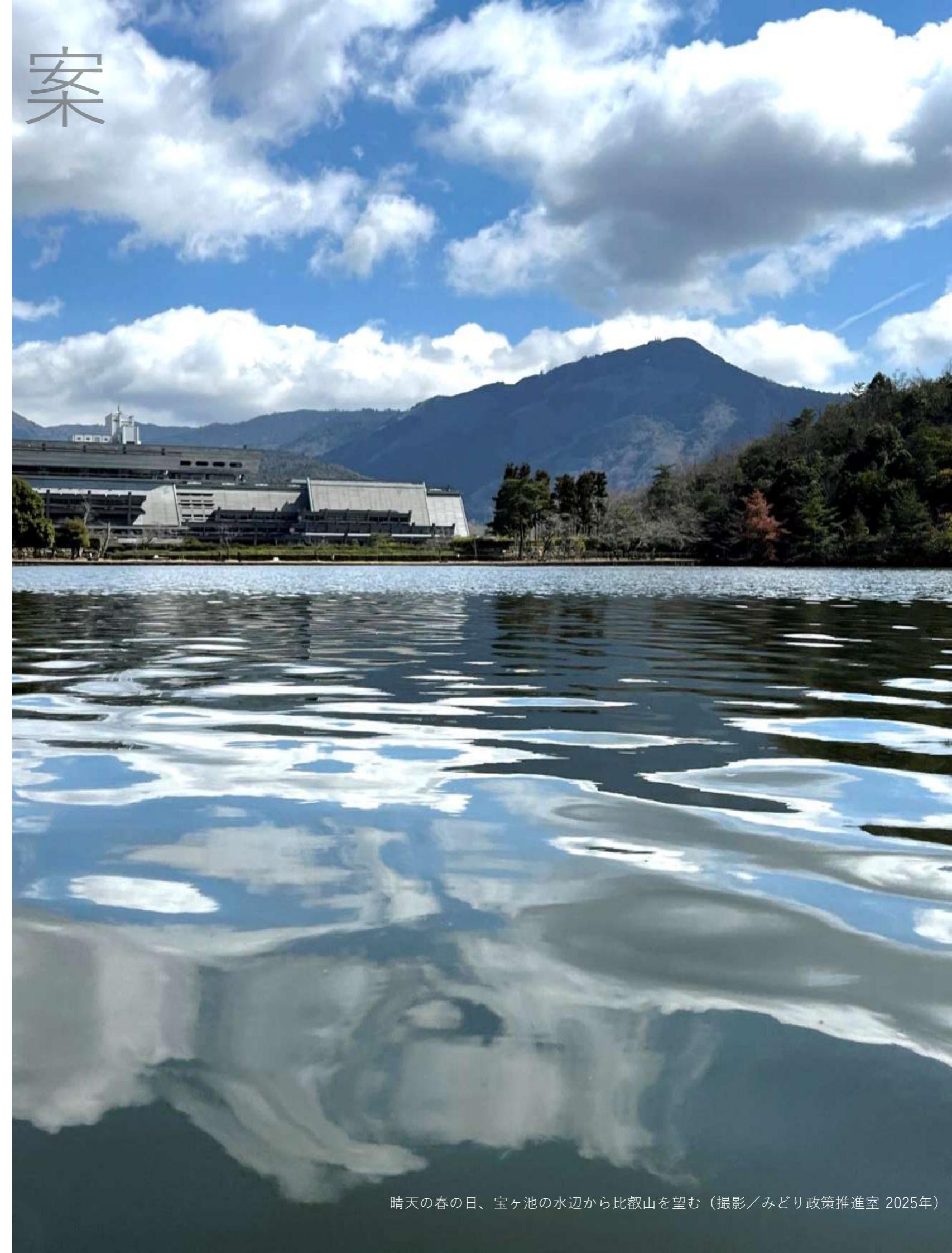
ちせん
庭園の池泉のように巧みに設えられた美しい池

たからがいけ
宝ヶ池のように人の営みの中で造られたため池

水が絶えず流れる川とは一味違った、

穏やかで静かな水辺の風景をもたらす

案



晴天の春の日、宝ヶ池の水辺から比叡山を望む（撮影／みどり政策推進室 2025年）

疏水

Canal



※2枚目(画面自動切替)

深草を流れる疏水をサクラが彩る
(撮影／みどり政策推進室 2025年)

京都に恵みと潤いをもたらす流れ

びわこそすい
——琵琶湖疏水

明治期に造営された、
美しい水辺の空間を生み出すみどり

琵琶湖疏水の水を引き入れる無鄰菴等の庭園や、
岡崎公園、東山自然緑地、哲学の道は、

文化やくらしとも深く関わる

案



満開のサクラに彩られた琵琶湖疏水と東山自然緑地（撮影／みどり政策推進室 2025年）

公園

Parks



※2枚目(画面自動切替)

5月の放課後、こどもで賑わう大門公園
(撮影／みどり政策推進室 2024年)

案



くらしに身近な緑地——公園

1,000箇所近くに及ぶ、色々な表情を持つみどり

広大な自然をたたえる宝が池公園、

歴史をまとって佇む円山公園、

大勢の人々の賑わいの中の岡崎公園や梅小路公園、

そして日々のくらしに溶け込む近所の公園など

身近で多様な公園は、

子どもからお年寄りまでが遊び憩う、

人々の居場所となる

街路樹

Street Trees



※2枚目(画面自動切替)

秋の堀川通を彩るイチョウ並木
(撮影／みどり政策推進室 2025年)

道路沿いに植えられた並木——街路樹

京都では明治期末頃から植え始め、
今では84万本に及ぶ

何世代もの間、京都の人々の手で大切に守られ、
くらしとともに育ってきたみどり

まちに木陰の癒しや歴史ある風格を生み出し、
美しい四季の移ろいがくらしを彩る



梅雨の雨に濡れる御池通のケヤキ並木とアジサイ (撮影／みどり政策推進室 2025年)

雨庭

Rain Gardens



※2枚目(画面自動切替)

四条堀川南東の交差点、大通り沿いに生まれた雨庭
(撮影／みどり政策推進室 2025年)



あまみず
地上に降った雨水を一時的に貯留し、

ゆっくりと地中に浸み込ませる植栽空間——雨庭

京都の雨庭は日本庭園風の独自のもので、
くらしに寄り添うみどり

大雨時の防災に役立つ庭の美しいデザインには、
京都の庭園文化の技が光る

秋の東山二条の街角、京都独自の日本庭園風の雨庭（撮影／みどり政策推進室 2025年）

校庭

School Yards

園、学校、大学にある庭——校庭

児童生徒、学生達の学びや憩い、
時には地域の交流の場となるみどり

およそ250に及ぶ市立の学校園、
40を超える大学とともにある校庭は、
いつの時代も元気な声が響き、
未来の世代を育む

案



秋の日の校庭、ハナミズキの紅葉が揺れる（撮影／みどり政策推進室 2025年）

庭園

Gardens

案



自然と調和した魅力溢れる空間——庭園

国指定の特別名勝から個人邸の庭まで、
京都には世界屈指の庭園文化が花開く

国内外の人を魅了し続ける美しさは芸術の域に達する一方、
癒しのみどりとしてくらしに根付いている

坪庭

Tsubo-niwa Gardens

京町家や建物とともに設えられた

つぼにわ
小さな庭——坪庭

夏の暑さを和らげる工夫が込められた、

京都の市街地ならではのみどり

まえにわ なかにわ おくにわ
前庭、中庭、奥庭は、

限られた空間に四季の移ろいを取り入れ、

建物の内と外を緩やかにつなぐ

案



美しい坪庭の空間（写真提供／花豊造園株式会社）

社寺林

Sacred Grove

参道や境内の木立、鎮守の森、

神域の森、社寺の一角をなす山——社寺林

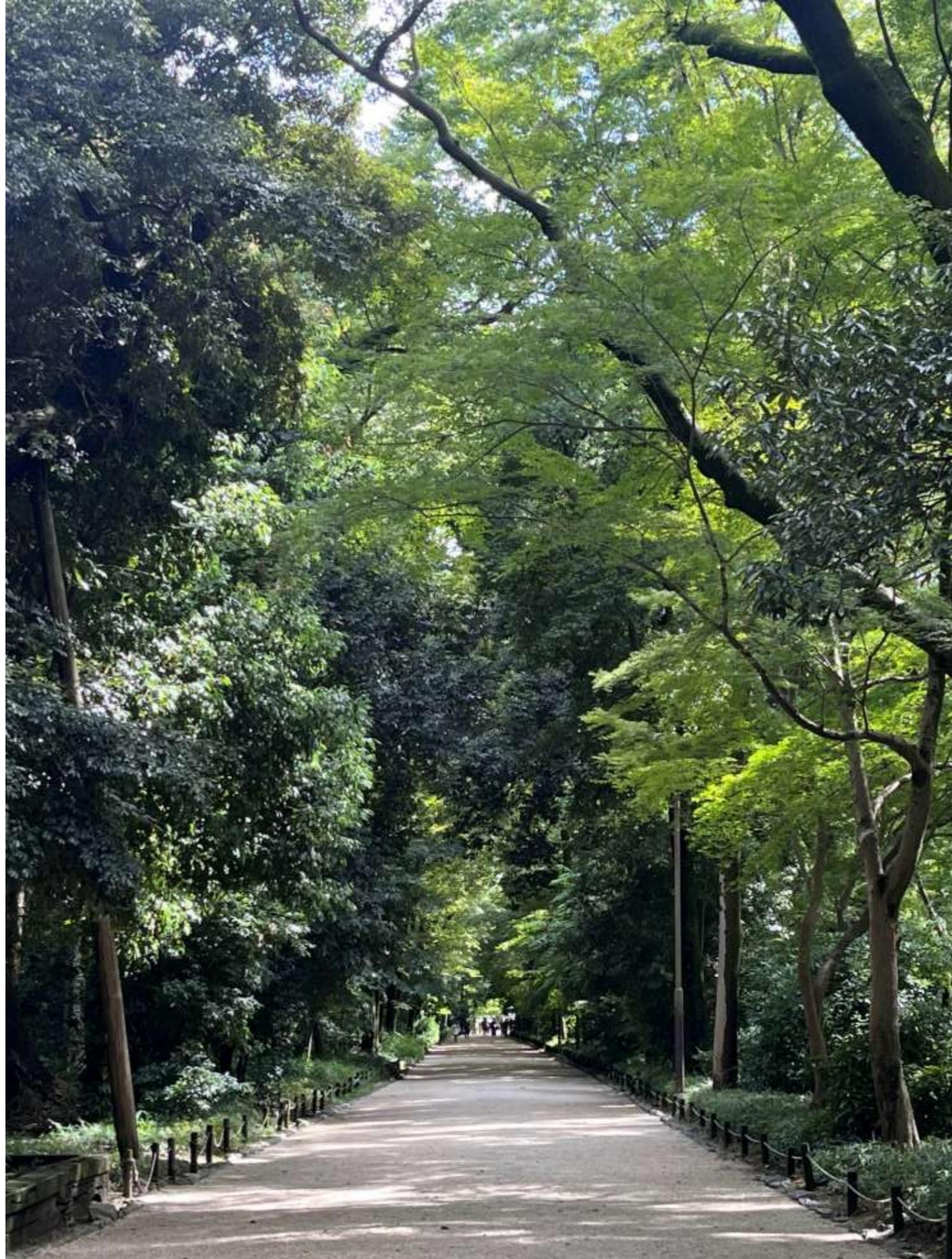
千年を超える京都の歴史の中で、

山すそや市街地に残る深遠なみどり

祈りや信仰の場、そして癒しの場として

まちやくらしに根付いている

案



夏の雨上がり、木漏れ日差す糺の森（撮影／みどり政策推進室 2025年）

名木

Historical Trees

巨木、老木、歴史や由緒ある木——名木
めいぼく

京都には今も1,000本近くが残る

移り変わる時代の中にありながら、
京都の人々に親しまれ守られてきたみどり

歴史ある京都ならではの名木の存在は、
空間に風格や深みをもたらす

案



円山公園の祇園枝垂桜、京都市「区民の誇りの木」に指定され京都を代表する名木（撮影／みどり政策推進室 2024年）

植物園

Botanical Gardens

多種多様な植物を守り育てる場所——植物園

京都には、行政、企業、大学など、多様な主体が
それぞれに育んできた植物園がある

なかでも京都府立植物園は、
100年にわたって花や樹木を
守り育てている代表的な植物園で、
色々な生きものにとって安らぎのみどり

学びと癒しをもたらす場所として、
多くの人に親しまれている

案



春の日、満開のサクラとチューリップを楽しむ人々、年間約80万人が来園する京都府立植物園（撮影／みどり政策推進室 2025年）

御苑

National Garden

市街地の中心エリアに広がる国民公園——京都御苑

周囲4kmにも及ぶ広大で深甚なみどり

かつて公家などの屋敷が建ち並んでいた場所は、

明治以降、約10万本の樹木が茂る豊かなみどりへと姿を変えた

四季折々の表情を見せる京都御苑は、人々の癒しと憩いの場でありながら、

多くの生きものを育む大切な場となる

※ 京都御苑内には、御所とは別に、国賓をもてなすための「京都迎賓館」があり、
ここには京都の庭園文化の粋を集めた美しい庭園がある

日本
National
Garden



秋の夕暮れ、建礼門前大通りとマツの木立ち、散策する人々（撮影／みどり政策推進室 2022年）

御所

Imperial Palaces



※2枚目(画面自動切替)

春の京都仙洞御所、南池（写真提供／宮内庁）

皇族の住まいや公務の場

——京都御所と京都仙洞御所

日本の庭園文化の粹を凝らした

美しい空間は、京都が誇るみどり

京都のシンボルとも言える固有の存在は、

国内外の人々を惹きつけてやまない

案



冬の京都御所、御池庭（写真提供／宮内庁）

離宮

Imperial Villas



※2枚目(画面自動切替)

秋の桂離宮、書院廻り（写真提供／宮内庁）

江戸期に造営された皇族の別荘——離宮
りきゅう

建築と一体となった

美しい庭園を持つ桂離宮

山中に造られ、自然に溶け込んだ

景観が魅力の修学院離宮

京都の歴史や文化を象徴するみどりは、

訪れる人々を魅了する

案



夏の修学院離宮、上離宮（写真提供／宮内庁）

陵墓

Imperial Mausoleums

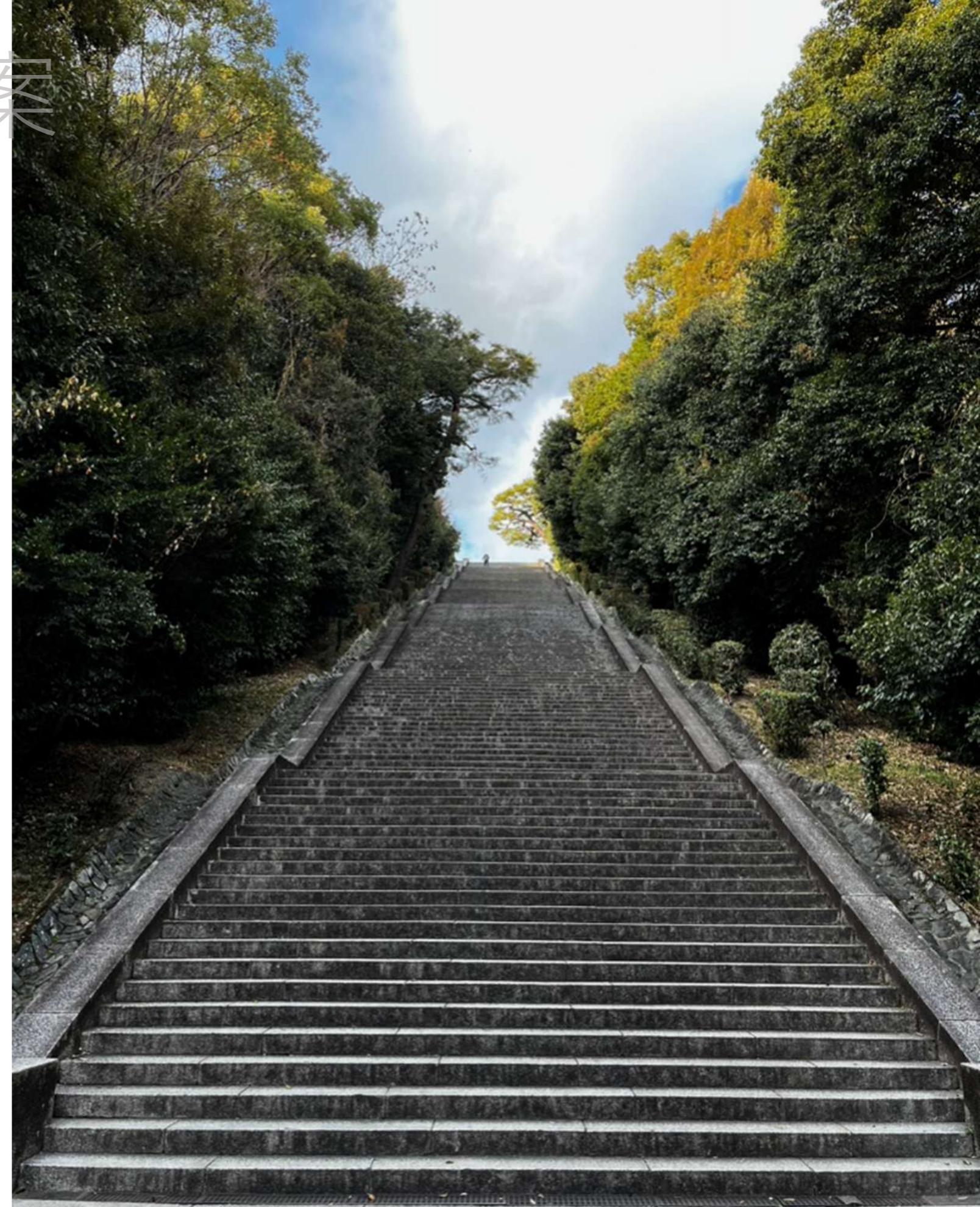
天皇や皇族が葬られている場所——陵墓

悠久の歴史の中で築かれ、守られてきた厳かなみどり

京都に所在する天皇陵だけでも伏見桃山陵をはじめ60を超える

数の多さは全国でも群を抜き、京都の歴史の深さを物語る

陵



冬の日、伏見桃山陵へと続く大階段と豊かなみどり（撮影／みどり政策推進室 2025年）

建物の緑化

—第2章— みどりの魅力

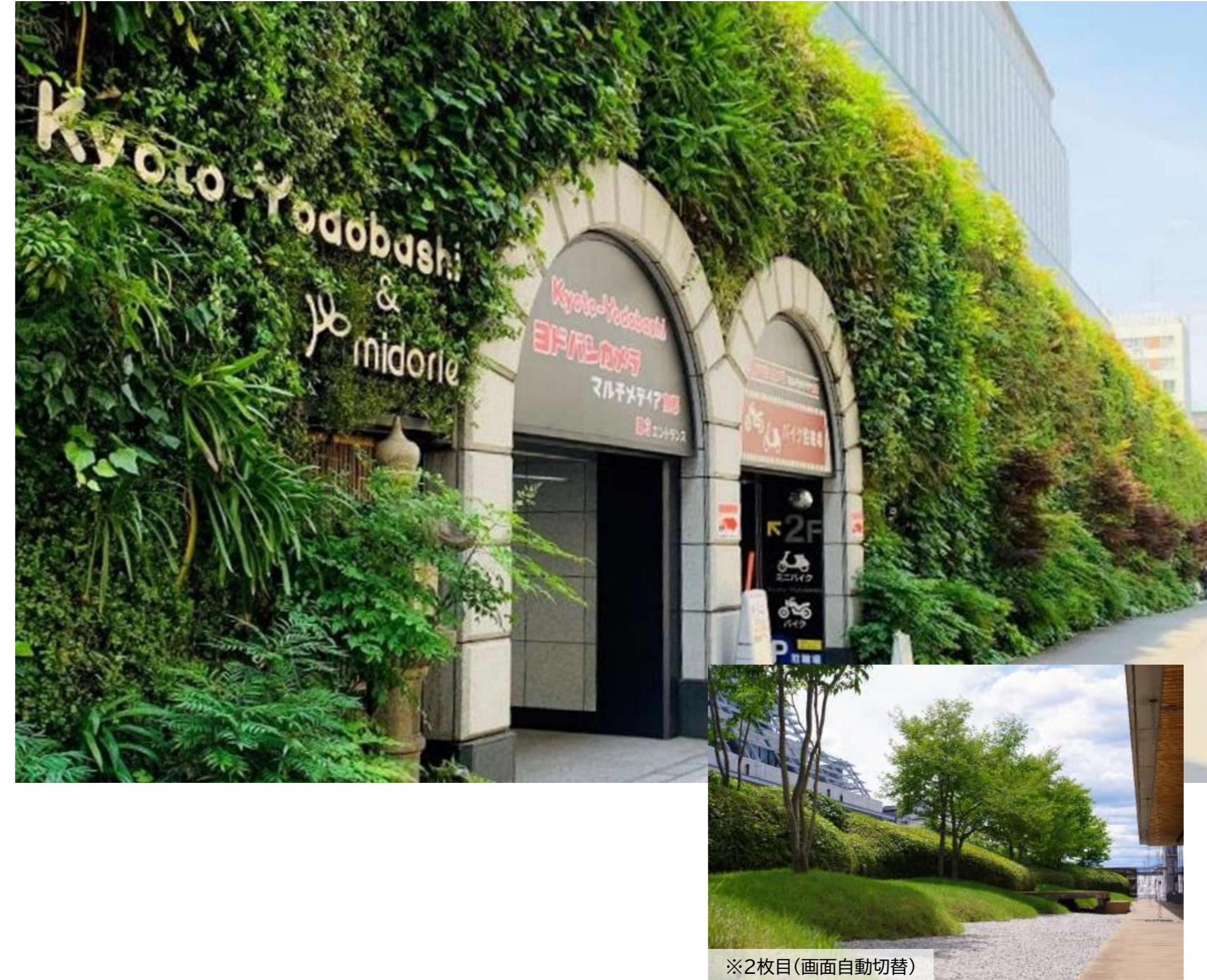
Greening of Buildings

建物と一体化した緑化——建物の緑化

壁面緑化と屋上緑化に代表され、
空間に限りのある中心市街地に
みどりを生み出す有効な手立て

現代的なスタイルのみどりとして、
公共施設、商業施設、住宅など、
随所に取り入れられている

案



京都市役所分庁舎の屋上緑化、みどり豊かな庭園スペース
(撮影／みどり政策推進室 2025年)

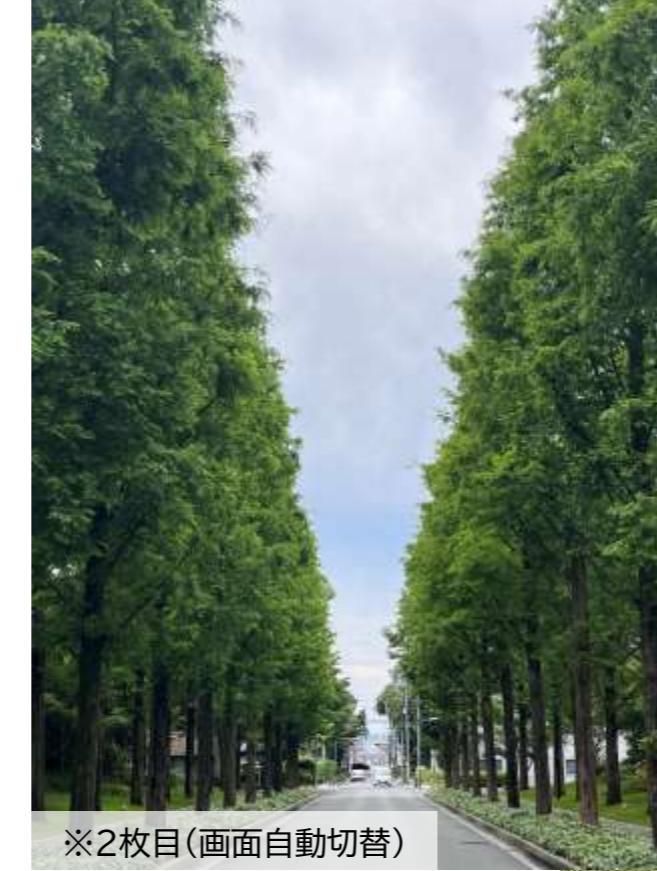
敷地の緑化

Greening on the Premises

所有する敷地の一部を芝生や木立、庭園、
森として活かす緑化——敷地の緑化

住まい、公共施設、企業の事業地や工場などの
一角に設えられたみどり

生み出された貴重なみどりは、
まちの美しい風情の一部となっている



※2枚目(画面自動切替)

企業から京都市に寄付された街路樹
(撮影／みどり政策推進室 2025年)



※3枚目(画面自動切替)

住まいの一角に設えられた庭
(船岡山の家 写真提供／福井亘氏)

案



NISSHA(株)本社の敷地内緑化、美しい芝生が四条通に面して広がる（撮影／みどり政策推進室 2025年）